

## 第10回日立市原子力安全対策懇談会会議録

### 1 開催日時

令和7年2月18日（火） 午後2時30分から午後4時20分まで

### 2 出席者

- (1) 委員：9名
- (2) 事務局：7名
- (3) 日本原子力発電株式会社（以下「原電」という。）：6名

### 3 内容

- (1) 委員紹介
- (2) 議事

ア 東海第二発電所に関する事 [説明者：原電]

- (ア) 日立市における訪問対話活動について
- (イ) 情報公開の見直しについて
- (ウ) 中央制御室内制御盤における火災の発生について  
※ 委員からの意見に基づき、議事を追加

イ 令和6年度（下半期）の原子力安全対策課の取組について [説明者：(原)]

- (ア) 広域避難計画に係る住民説明会の結果について
- (イ) 安定ヨウ素剤の事前配布の状況について

### 4 配布資料

- (1) 東海第二発電所に関する事

- ア 日立市における訪問対話活動について 【資料1】
- イ 情報公開の見直しについて 【資料2】
- ウ 中央制御室内制御盤における火災の発生について 【資料（追加）】

- (2) 令和6年度（下半期）の原子力安全対策課の取組について

- ア 日立市原子力災害広域避難計画に係る住民説明会の結果について 【資料3】
- イ 安定ヨウ素剤の事前配布等の状況について 【資料4】

### 5 発言内容

- (1) 東海第二発電所に関する事（回答：原電）

ア 日立市における訪問対話活動について

| 発言者 | 発言内容  |
|-----|---|
| 委員  | 原電が同じく所有している敦賀原発では、訪問対話活動は行われているのか。   |
| 原電  | 訪問対話活動について、敦賀地区では25年以上前から実施をしている。その他の理解活動についても、地域のニーズ等も踏まえ、東海地区と敦賀地区では活動内容を変えている。 |

## 第 10 回日立市原子力安全対策懇談会会議録

|    |   |
|----|---|
| 委員 | 敦賀地区では、訪問対話活動を25年以上行っているのに、東海地区ではここ数年しか行っていない。効果が無かったから東海で行わなかったのか。   |
| 原電 | 敦賀地区での実績から、訪問対話活動に一定の成果があるとの認識を持った。東海地区では、他のいくつかの理解活動を行っていたが、訪問による活動も必要であるとの判断に至り、3年前から行っている。   |
| 委員 | 訪問対話活動において、原子力に賛成・反対に関わらず、今後訪問を希望しない世帯が出てくると思うが、そこへの押し付けの活動になってはならないと考えている。その点について、今後の考えや計画はあるか。  |
| 原電 | 昨今では、特殊詐欺などの増加もあり、訪問を希望しない世帯は増えている。そういった世帯に対しては意思をくみ取り、来年度以降に訪問しないよう、巡回用の地図に落とすしていく。<br>訪問のやり方については、今後も引き続き改善していく。                                      |
| 委員 | 訪問対話活動の意義は、地域の信頼を得ることである。また、信頼を得るためには、“原子力発電所を安全に運営する”ことに尽きると考えている。事故や火災を防止することで、訪問対話活動と同様の効果があるということを認識し、所員に徹底してもらいたい。                                 |
| 委員 | 訪問対話活動について、平日の対面と休日の対面率がかなり異なっていたが、おそらく双方で対面可能な年代に違いがあったのではないか。今現在、日立市を支えている若い子育て世代などからも意見を募っているのか。   |
| 原電 | 訪問対話活動を行う11月は、理解活動の一環として、各市町村で行っている地域の様々なイベントに参加した影響で、訪問戸数が昨年度比で減ってしまった。今後は、高い対面率を得られる休日の訪問日数を増やしたり、訪問だけでなく、様々な媒体を通して、子育て世代を含めた様々な世代にアプローチしていきたいと考えている。 |
| 委員 | 意見を年代別に分析すると、訪問対話活動の次の方向性が分かるのではないか。  |
| 委員 | 今後、訪問対話活動について、完了の目途のようなものはあるのか。   |
| 原電 | 訪問対話活動については、安全対策と同様に、終わりはないと考えている。本日は情報公開の見直し（拡大）についてご説明させていただいたが、情報を知らないことには皆様に判断していただけないと思う。訪問対話活動やイベント等、様々な媒体を通して、情報を的確かつスピーディーに皆様へお届けしていきたい。        |

## 第 10 回日立市原子力安全対策懇談会会議録

### イ 情報公開の見直しについて

| 発言者 | 発言内容  |
|-----|---|
| 座長  | 電気火災が起きているのは、施設の内側から脆くなっているという点で、とても心配である。電気設備を扱っている施設である以上、電気火災は起きるものであると思うが、頻度が高い。他の様々な発電所における年間のインシデントの発生割合と比較して、原電で起きた頻度は多いのか少ないのか。                               |
| 原電  | 令和4年度、令和5年度と、立て続けに火災を発生させており、他の発電所と比較して多いと判断している。   |
| 座長  | 火災の原因としては、老朽化が原因なのか。  |
| 原電  | 2年間で8件の火災事象について、原因を調査しているが、全て経年劣化が原因ではない。8件中2件が経年劣化によるものであった。   |
| 座長  | 他の火災事象の原因としては、どのようなものがあつたか。   |
| 原電  | 現在、安全性向上対策工事に係る仮設電源設備が、発電所構内の屋外に多数ある。設置した当時は問題なかったが、周りに様々な建物が建てられたことなどによって、水没するような環境になってしまったケースや、電源の日常の入切をブレーカーで行うなど、誤った使用方法で火災につながったケースもあった。                         |
| 委員  | 安全性向上対策工事に伴い仮設電源設備を屋外設置しているが、工事を始めてから10年近く経過しており、もはや仮設ではなくなっている。にも関わらず、従来通りの点検を継続していたことが、水没による火災の原因の一つであると聞いている。これについては、マニュアル等を作成し運用していくとのことで、対策が取られていくと思うが、どのようなものか。 |
| 原電  | 仮設電源設備について、従来は、工事期間中の短期間しか使わないものとして、月1回程度の外観の目視点検を行うことをルールとして定めていた。しかし、火災の発生を受けて、仮設とはいえ長期間の使用に合った点検が必要と判断し、年に1回、設備を停電させて点検を行うことをルールとして定めた。                            |
| 座長  | 事故防止対策について、問題ばかりを公表し緊張感を高める対応をするのではなく、現場からの良い意見も、公表及び共有してもらった方が良いと感じる。  |
| 原電  | 弊社においても、問題点ばかりを公表するのではなく、表彰制度を設けて良好事例の周知を行ったり、インセンティブ制度を設けるなどしている。  |
| 座長  | 良好事例を公表することによって、横展開により原電以外の他施設に反映されることもある。継続してほしい。  |

第 10 回日立市原子力安全対策懇談会会議録

|    |  |
|----|--|
| 委員 | <p>設備が劣化したら、安全のために全て交換しなければならないのではないかと。また、火災の原因について、おそらくショートが原因と思われるが、設備の日常点検はどのように行っているのか。</p>  |
| 原電 | <p>設備の経年劣化への対応については、交換した方が早いものや、点検を維持することで健全性を維持できるものなど、設備に応じて見極め、対応している。交換が安全性を高め、効率も良いと判断した時は、期限を決めて交換し、そのリストも作成している。</p> <p>日常点検の方法については、機器や部品によって変わってくるが、代表的なもので申し上げると、絶縁抵抗の測定（導体が、周囲の箇所ショートする恐れや、耐性がどれくらいあるのかを測る）が一般的である。</p> |
| 委員 | <p>事故の頻度について、御社の敦賀原子力発電所と比較しても、東海第二発電所の方が多いのではないか。</p>   |
| 原電 | <p>同じ事象でも、その地域を所轄する消防の判断によって、火災と認定される場合とならない場合があるため、一概に比較するのは難しい。</p>  |
| 委員 | <p>双方は同じ会社であることから、事故事象等の情報の共有は当然図られていると考えるが、どうか。</p>   |
| 原電 | <p>火災と認定されない事象についても、CR（コンディションレポート）として社内で共有されている。事故の頻度について、それらの情報から見ると、若干、東海第二発電所での事故数の方が多いと思われるが、特段に大きな開きはないと考えている。</p>   |
| 委員 | <p>火災については、新聞等で確認しており、地域住民としては「またか」という印象を受ける。火災規模について、このレベルであれば大丈夫といったような、安心できるアナウンスをもっと行っていただきたい。</p>   |
| 原電 | <p>事故に関する広報については、公設消防が火災と認定した場合、安全協定上、茨城県、東海村及び隣接市町村に報告を行い、併せて、県政記者クラブで速やかに記者会見を実施している。テレビで取り上げるか否かはメディア次第になってしまうが、我々が出来ることとして、自社ホームページでプレス資料の掲載を行っている。</p> <p>しかし、そのような意見が出るということは、広報が足りていないということであり、いただいた御意見を今後活かしていきたい。</p>     |
| 委員 | <p>CRについて、今後公開していくとのことだが、原電だと、年間通じてとても多い数になるのではないかと推察する。発生した事象を全て垂れ流しにするのではなく、CAP会議等で諮ったのち、公開していくという認識でよろしいか。</p>  |

## 第 10 回日立市原子力安全対策懇談会会議録

|    |  |
|----|--|
| 原電 | CRの数は、御認識のとおり、とても多い数になる。それらを毎朝首脳陣が行うCAP会議に諮り、社会的な影響の程度でグレード化し、情報公開を行っていく。  |
| 委員 | 機器の点検について、毎回同じ箇所の点検になっていないのか。出火の箇所は、これまで見てこなかったところから出火するケースが多いと考える。今後、点検方針や保全計画などを作成されると思うが、そのあたりの細かいところにまで目を向けてほしい。 |
| 委員 | 情報公開については、今後積極的に公開していくということで、とても良い取組であると思う。については、本懇談会の中で、2月4日に発生した中央制御室の火災についても、きちんと報告してほしい。                         |

※上記の意見を踏まえ、座長、原電及び事務局で協議の上、下記ウの議題を追加

### ウ 中央制御室内制御盤における火災の発生について

| 発言者 | 発言内容  |
|-----|---|
| 委員  | <p>原発は必要と思っているが、鋼製防護壁基礎でコンクリート充填不足問題が発生し、その後火災が頻発し、今回は、中央制御室内で火災が起きている。一般住民として、一番起こしてもらっては困るところで火災を起こしていると感じている。</p> <p>また、訪問対話活動においても、活動開始から3年間で、「原子力発電への理解等を示した意見」が特に増えていない。理由の一つとして、やはり今回の火災のようなことがあるのではないか。</p> |
| 原電  | <p>委員の皆様から御意見があったとおり、火災などのトラブルがあると、いくら訪問対話活動を行っても理解が進まないということになる。様々な理解活動させてもらっているが、やはり発電所をしっかりと運営できることに尽力していかなければいけないと認識している。</p> <p>今回の火災の原因も含めて、改めて再発防止に一丸となって取り組んでいきたい。</p>                                      |

### (2) 令和6年度（下半期）の原子力安全対策課の取組について

#### ア 広域避難計画に係る住民説明会について

意見無し

#### イ 安定ヨウ素剤の事前配布の状況について

意見無し

以上